

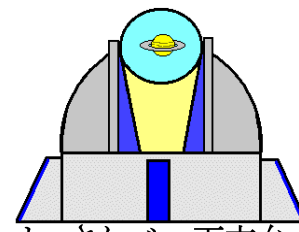


Shosanbetsu Astronomical Observatory

天文台だより

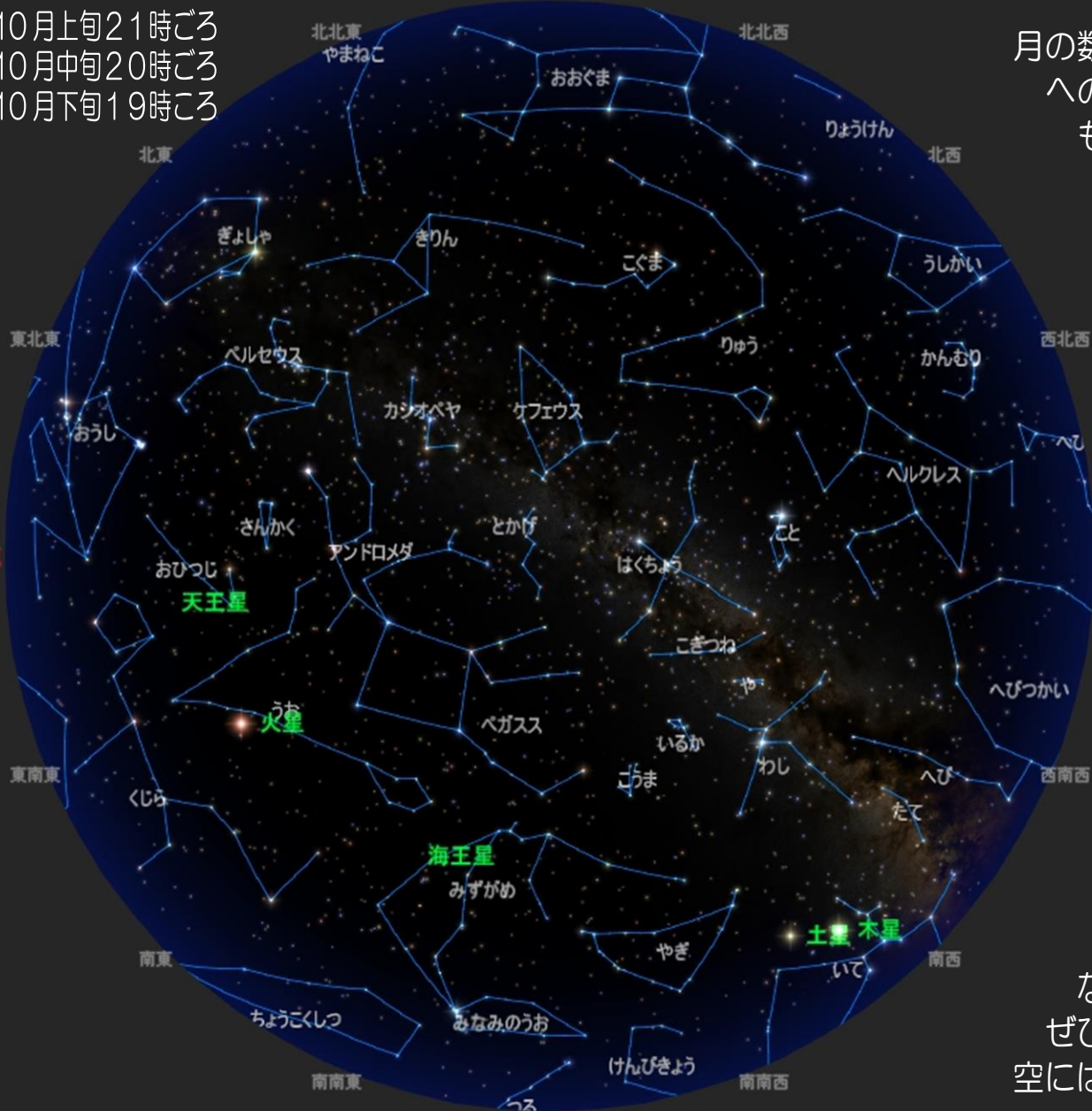
～10月の星空～

令和2年9月25日



しよさんべつ天文台

10月上旬21時ごろ
10月中旬20時ごろ
10月下旬19時ごろ



月の数字が1桁から2桁に増えて、夜空も夏から秋への衣替えが始まりつつあります。夏の大三角はもう少し踏み踏みとどまりますが、秋の星座たちへのバトンリレーの準備中といったところでしょうか...

北の空に見える「おおぐま座」と「こぐま座」の親子関係はよく知られていますが、秋の星座で黄道12星座の一つとしておなじみの「うお座」も親子だと言われています。うお座にまつわる物語の中には、女神アフロディテとその子であるエロスが怪物から逃れるために魚に変身したのだというものがあって、星座絵でもリボンで結ばれた2匹の魚が描かれています。怪物から逃げる親子が離ればなれにならないように、ということなのでしょうね...

その「うお座」には、今月、地球と最接近する火星がいます。今回のように大きな火星が見られる接近が次に起こるのは13年後と15年後。今回見逃すと“まともな”火星はしばらくおあずけとなりますので、ぜひとも見ておきたいところです。そして、東の空には、早くも冬の星座が見え隠れしています...

10月の太陽・月と主な惑星の出没

		1日	11日	21日	31日
太陽	出	05:29	05:42	05:54	06:08
	没	17:15	16:57	16:40	16:25
月	出	17:23	23:23	11:06	16:30
	没	04:23	14:11	19:55	05:19
金星	出	01:57	02:18	02:41	03:04
	没	15:47	15:38	15:26	15:14
火星	出	17:59	17:10	16:21	15:33
	没	07:00	06:06	05:12	04:22
木星	出	13:41	13:04	12:29	11:54
	没	22:36	22:00	21:26	20:53
土星	出	14:06	13:27	12:49	12:11
	没	23:14	22:35	21:57	21:20

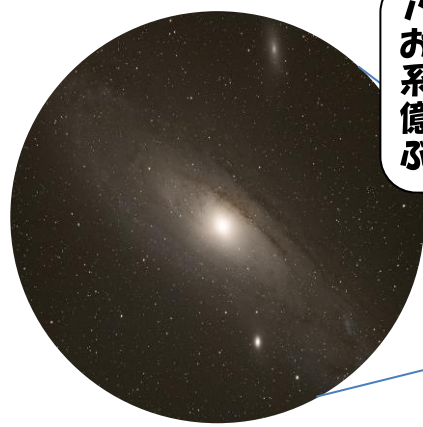
〈主な惑星〉

水星…夕方の西の空ですが、高度が低いので観望には不向きです。

金星…明け方の東の空に“明けの明星”として輝きます。

火星…いよいよ6日に最接近となります。観望好期です。

木星・土星…南西の空で並んで見えます(右に木星、左に土星)。高度は低くなりますが、明るさは十分です。



アンドロメダ座大星雲 M31。お伴の銀河を2つ従えた銀河系の隣にある銀河で、あと40億年くらいすると、銀河系とぶつかると言われているよ。



日	天文現象
1	中秋の名月
2	○満月 水星が東方最大離角(夕方の西の空) 月が火星に最接近
6	火星が地球と最接近(準大接近)
8	りゅう座流星群がピークのころ 寒露(太陽黄経 195°)
10	▼下弦
17	●新月
21	オリオン座流星群がピークのころ
23	霜降(太陽黄経 210°) △上弦
31	月が今年最も遠くなる(40万 6394 km) ○満月(今年最も小さい満月)

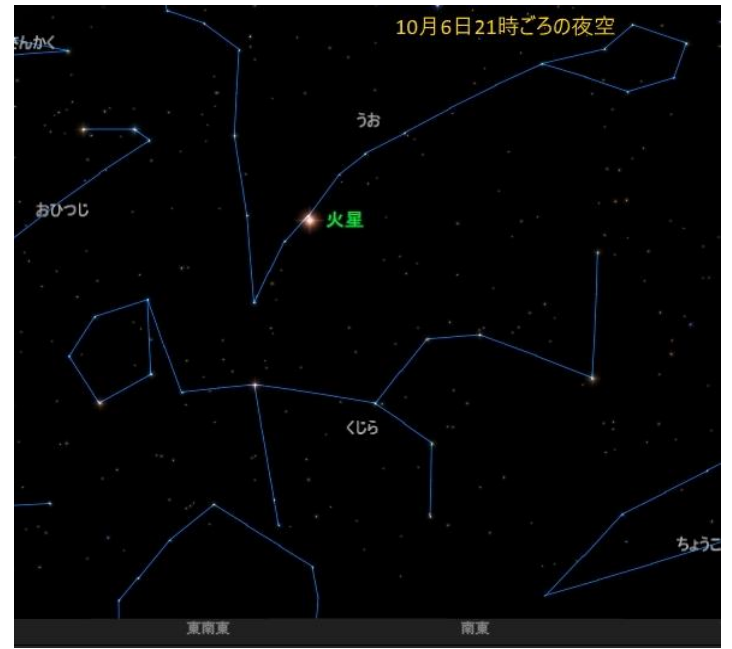
●**ごぶさたしておりマーズ…(寒)。**

前回2018年7月31日の大接近からおよそ2年2か月、再び火星が地球に近づき、10月6日、最接近となります。

地球のすぐ外側の軌道をまわる火星は、地球に比べて軌道の「だ円の度合い」が大きくて、同じ最接近でも、近いときは5,600万km、遠いときには1億kmも離れていることがあります。

今回は、最接近のときの距離がおよそ6,200万kmで前回よりも少し遠いため「準」大接近とも言われますが、見た目の大きさは前回とさほど変わらないうえ、今回の方が地上からの高度が高いので、むしろ良い条件で観望できそうです。ただし、最接近を過ぎると小さくなっていくのも早くて、観望好期は11月くらいまでです。

古代ローマ神話の軍神「マーズ」の名をいただく火星…。次の準大接近は2033年7月、大接近は2035年9月です。



●**プレゼンツ・フロム・オリオン。**

火星が真南に見えるくらいの時間になると、東の空には早くも冬の星座の代表格「オリオン座」が姿を現します。10月後半、そのオリオンがこん棒を持つ右手の近くの1点から四方八方に流れ星が飛び交う「オリオン座流星群」が見られます。

この流星群の流れ星の元は、「ハレーすい星」が軌道上に残していったチリです。流れ星の数こそそんなに多くはありませんが、割と明るいものが多いので、見やすい流星群の一つです。

ピークは10月21日の日中なので、その前後の夜が見ごろですが、放射点が一番高くなるのが明け方の3時ごろ。眺めるには早起きと寒さ対策が必要ですね。オリオンからの贈り物に願いをかけてみましょうか…。



新型コロナ対策の関係で今年は中止とした「星まつり」。その代わりといっはなんですが、10月10日(土)、18時より「星空観察会」を開催します。
 通常は村内の小学生を対象としている星空観察会ですが、この日は村内の方はもちろんのこと、村外の方もOK、老若男女も問いません。18時の開始時から入館料は無料、終了は21時を予定しています。
 木星や土星、6日に準大接近となる火星など、見応えのある惑星を中心に観望を行う予定です。

☆☆☆ **天文台のご利用案内(10月)** ☆☆☆

[開館日]	水~月曜日	日	月	火	水	木	金	土
[開館時間]	水………10:00~17:00 木~月…10:00~19:00	4	5	6	7	8	9	10
[休館日]	火曜日	11	12	13	14	15	16	17
●水曜日は、星の観望はできません。		18	19	20	21	22	23	24
●曇天・雨天・強風時は、星の観望はできません。		25	26	27	28	29	30	31

- 行事・団体利用・点検等で利用できないことがあります。
- 職員が観望対応中のときは、入館受付を中断する場合があります。
- 初山別村民は入館無料です。天文台へお越しの際は、マイスターズシステムの村民登録証をお持ちください。

●TEL/FAX : 0164-67-2539 ●E-mail : tenmon@arens.or.jp
 ●URL = <http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon/>

☆**新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐため、ご協力ください。**

- ・混雑が激しいなど安全な観望ができないと予想される場合には、観望を中止する場合があります。
- ・高熱やせきなどの症状がある方は入館できません。
- ・入館前の手指消毒、マスクの着用、3密(密閉・密集・密接)の回避にご協力ください。

星見人「しよさまる」の

天文クイズ



10月1日は中秋の名月、次の日が満月です。月の表側ではただ一つ、日本人の名前がつけられたクレーターがありますが、なんという名前でしょう？(答えは次号で)

- ア アサダ**
- イ イマダ**
- ウ ウエダ**
- エ エ/キダ**

【前号の答え】エ(こうのとりの)

【解説】国際宇宙ステーション補給機として2009年から使われ始めた「こうのとりの」は、最大で一度に6トンもの物資を運ぶことができます。今年8月20日、9号機が最後の補給ミッションを終えて大気圏に再突入し、一度の失敗もなく11年間の運用を終了しました。現在、新型の補給機がJAXA(宇宙航空研究開発機構)で開発中です。

天文台利用状況(8月末現在)	
令和2年度利用者数	1,802名
利用者累計	275,252名
My Stars system 登録者数(一般)	10,058名

【編集後記】勤務場所が天文台に変わって半年。うまくいかなかったり、怒られたり、悲報があったりで凹んだことがあった一方、某職員の父さんや村民の人の来館で観測室が賑やかになって、元気をもらえたこともあったり…。コンビニの会計が777円になったときは、店員さんにいいことがあると言われましたが、そのとおりになったかどうかは想像にお任せします…。(な)